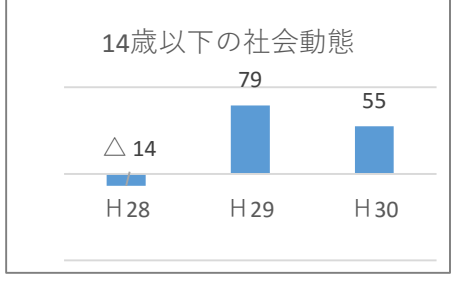
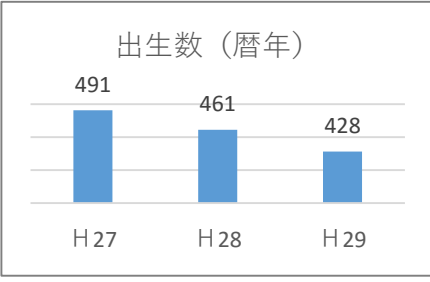
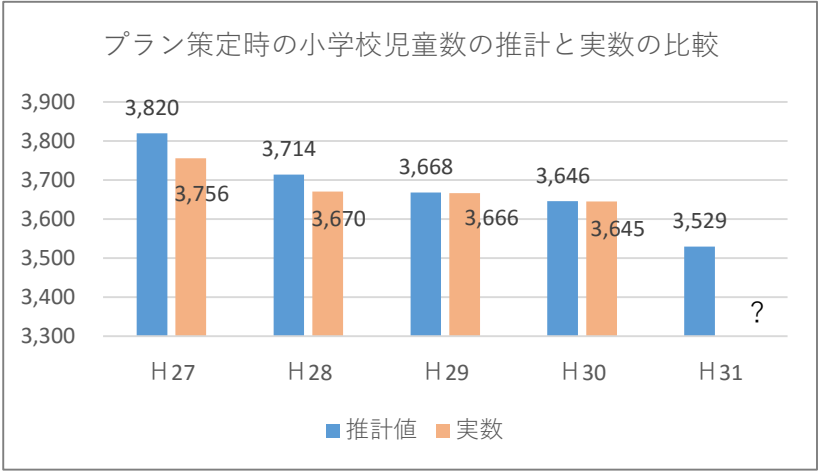
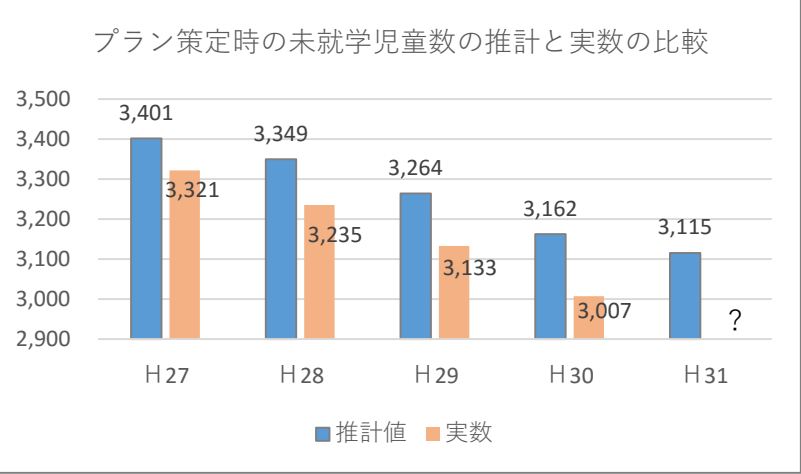


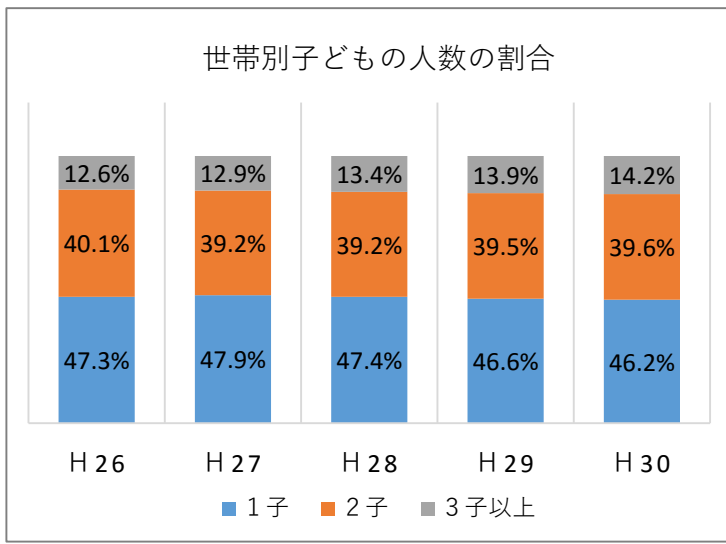
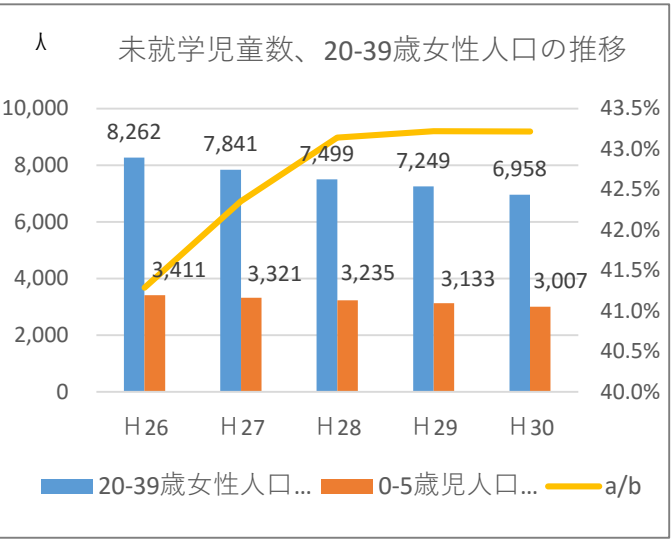
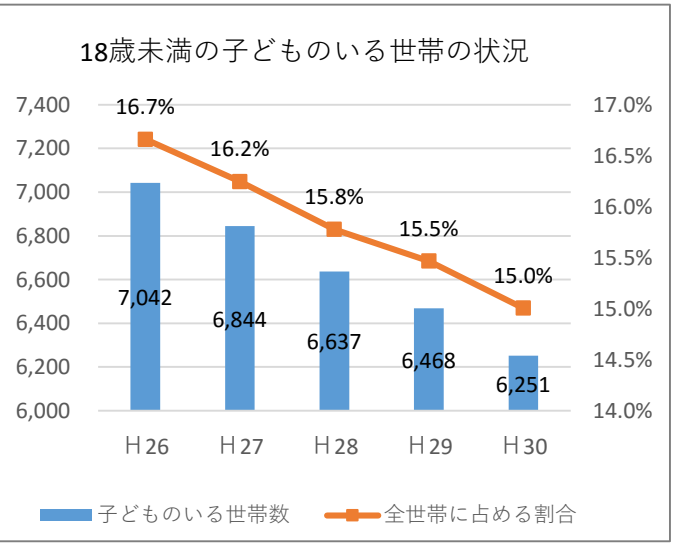
岩見沢市の子ども・子育ての状況

子どもの数 プラン策定時との比較



出生数の減少により、未就学児童数はプラン策定時の予測を下回っているが、小学生の数については、H29から予測値とほぼ同じになっている。これについては、14歳以下の社会動態が転入超過となっており、それが小学生の数に影響したものと考えられる。

子どものいる世帯の状況

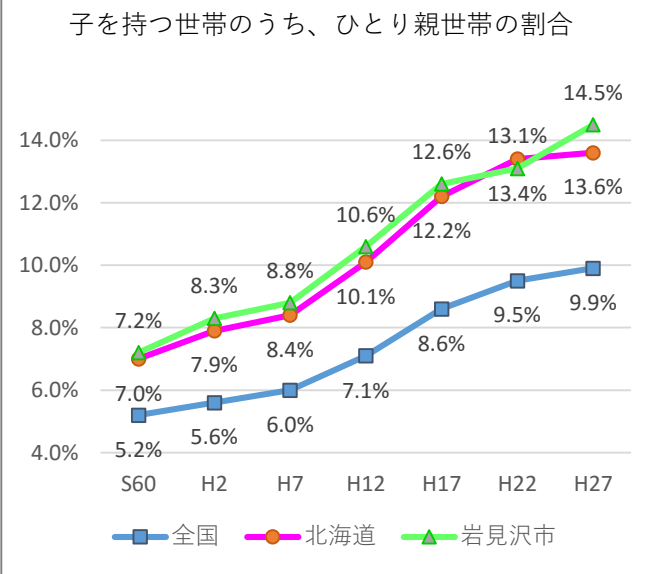
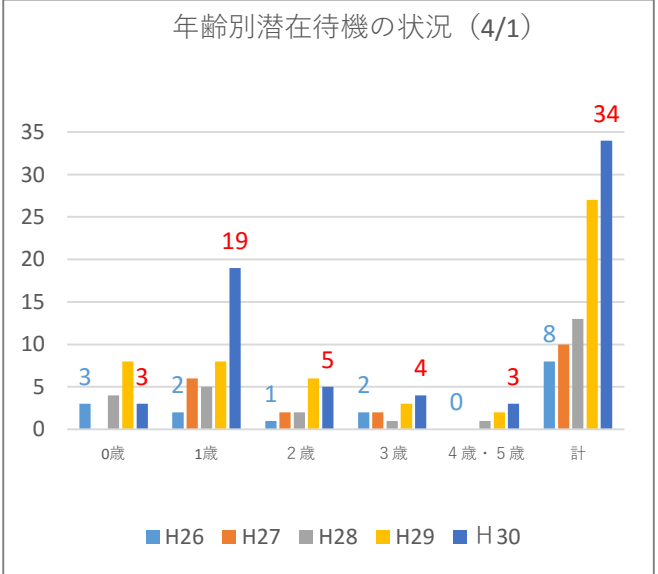
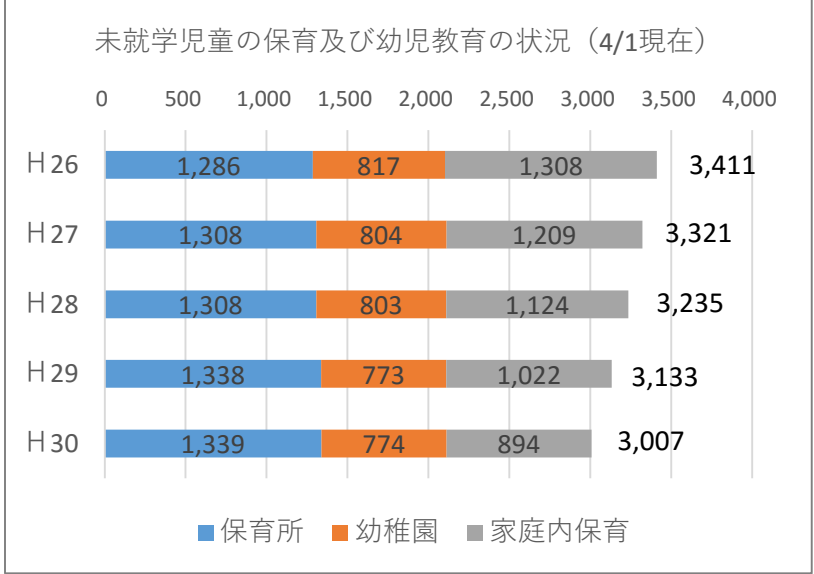


世帯全体に占める18歳未満の子どものいる世帯の割合は、18歳人口と出生人口の差により減少傾向である。

出産育児を担う20歳～39歳の女性の数はプラン策定時（H26）と比較して15.8%減少しているが、未就学児の減少は11.8%に留まった。

「2人目を産みたいという希望をかなえる」としてH28に始まった保育料の減額細分化、第2子・第3子無料化実施後、多子世帯の割合が若干増加した。

保育と幼児教育の状況



未就学児童数は減少している中で、保育所利用は増え続けており、家庭内保育が減少している。家庭内保育のほとんどは3歳未満の子どもである。

本市の場合、統計上の待機児童はいないが、特定の保育所を希望して入所待ちをしている潜在待機児童は増加傾向にある。中でも1歳児の潜在待機が多い。

保育所利用の増加はひとり親家庭の割合が増加していることも影響していると考えられる。